NME News
Nutritional Management Expert News
栄養経営士のための情報紙
2020 12月号
●発　行／一般社団法人 日本栄養経営実践協会（JANMP）
〒104-0032
東京都中央区八丁堀3-20-5
S-GATE八丁堀9階
●制　作／株式会社日本医療企画
お問い合わせ先／一般社団法人 日本栄養経営実践協会 事務局　TEL.03-3553-2903　FAX.03-3553-2904　http://nutrition-management.jp

第11回「栄養経営士」資格認定試験 結果詳報

46人が合格、累計合格者数は949人に!

感染症に打ち克つには栄養の力が不可欠 栄養経営士から地域栄養活動の波を起こせ!

一般社団法人日本栄養経営実践協会（代表理事：宮澤靖）は12月15日（火）、第11回「栄養経営士」資格認定試験の合格者発表を行った。同試験は11月15日（日）に全国7会場（札幌、仙台、東京、金沢、名古屋、大阪、福岡）で実施され、61人が受験し46人が合格。この結果、これまでの累計では受験者数が1267人となり、合格者数は949人となった。今試験の結果詳細について報告する。

【結果概要】（表1）

申込者数64人のうち61人が受験し（受験率95・3％）46人が合格。合格率は75・4％と、第1回～第10回までの累計74・9％をやや上回る結果となった。この結果、累計受験申込者数は1331人、累計受験者数は1267人、累計合格者数は949人となった。

【年代別構成】（表2）

今回は、受験者数・合格者数ともに「30歳以上39歳以下」がもっとも多かった。次に多いのが受験者数では「40歳以上49歳以下」、合格者数では「29歳以下」となった。合格率は「29歳以下」が91・7％ともっとも高く（12人中11人合格）、次いで「30歳以上39歳以下」が86・4％（22人中19人合格）、「40歳以上49歳以下」56・3％（16人中9人合格）と続いた。

【所属別構成】（表3）

受験者数・合格者数ともに「病医院」が最多で、次点が「介護福祉施設等」、「栄養関連企業」からの受験者は4人であった。

「病医院」の合格率は73・9％と前回（第10回）の86・6％を大きく下回り、「介護福祉施設等」は前回の50・0％を大きく上回る72・7％となった。近年「介護福祉施設等」は受験者に対し合格者が大きく目減りすることが多かったが、ここに来て躍進の兆しが見えた。この調子で、介護福祉施設での「栄養経営士」の活躍を期待したい。

「栄養関連企業」では、受験者全員が合格するという快挙を成し遂げている。感染症対策をにらんで地域で栄養活動を行う場合、病院や介護福祉施設のほかに薬局や食品メーカー等、栄養・食に関わるさまざまな立場の「栄養経営士」・「栄養経営サポーター」が力を合わせて進めれば、大きな効果が期待できる。ぜひ、業種を超えてタッグを組み、成果を上げてほしい。

【都道府県別構成（上位4都道府県）】（表4）

受験者数と合格者数ともに東京都がトップとなった。次いで、受験者数は大阪府、埼玉県と続き、合格者数は埼玉県と大阪府が同率2位になった。

12月に入っても新型コロナウイルスは猛威を揮い続け、医療・介護の現場は精神的・肉体的疲労が頂点に達している状態だろう。ぜひ、栄養経営士の管理能力やコミュニケーション能力を発揮し、職員の心のケアにも気を配ってほしい。

なお、今後の試験については、詳細が決定次第、協会ホームページ等でお知らせする。

表1　第11回試験および過去試験累計 結果概要

	第11回試験	第1～11回累計
申込者数	64人	1,331人
受験者数	61人	1,267人
合格者数	46人	949人
合格率	75.4%	74.9%

表2　受験者・合格者の年代別構成

	受験者数	合格者数	合格率
29歳以下	12人(19.7%)	11人(23.9%)	91.7%
30歳以上39歳以下	22人(36.1%)	19人(41.3%)	86.4%
40歳以上49歳以下	16人(26.2%)	9人(19.6%)	56.3%
50歳以上59歳以下	11人(18.0%)	7人(15.2%)	63.6%
60歳以上	0人(0.0%)	0人(0.0%)	0.0%

表3　受験者・合格者の所属別構成

	受験者数	合格者数	合格率
病医院	46人(75.4%)	34人(73.9%)	73.9%
介護福祉施設等	11人(18.0%)	8人(17.4%)	72.7%
栄養関係企業	4人(6.6%)	4人(8.7%)	100.0%
行政関連施設	0人(0.0%)	0人(0.0%)	0.0%
その他	0人(0.0%)	0人(0.0%)	0.0%

表4　受験者・合格者数上位5都道府県

第11回受験者	第11回合格者
東京都　8人	東京都　8人
大阪府　7人	埼玉県　5人
埼玉県　6人	大阪府　5人
神奈川県　6人	神奈川県　4人

※表2、表3のカッコ内の数値は全体に占める割合。小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

「栄養経営士」資格認定基礎講習DVD

資格認定試験の受験前に、「栄養経営」という考え方を理解するために受講いただく講習です。本講習の受講が、栄養経営士資格認定試験の受験要件となります。

DVD視聴による受講が可能！
☆3枚組、特典映像付き☆

栄養経営士も会員価格で聴講できます！

〔こんな方におすすめ〕
・会場で受講したが、内容を復習したい
・栄養経営士の方向性を、改めて確認したい
・栄養経営士として、もう一度、話を聞きたい　……

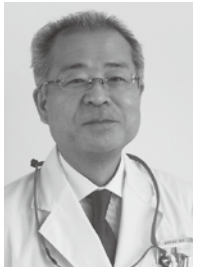
本編（収録時間／DISC 1：90分、DISC 2：73分）
1.院内・施設内における栄養部門の現状分析
2.目標設定能力と達成に向けた実践的アプローチ
3.業務の質を高めるためのアウトカム分析
4.「栄養経営士」に求められる教育と人事能力
5.適材適所の組織マネジメント
6.病態の把握能力
特典映像（収録時間／DISC 3：約30分）
観てわかる！近森病院に学ぶ実践マネジメントのすべて
■講　師：宮澤　靖 代表理事ほか
■受講料：8,500円（税込）**会員価格：3,850円（税込）**

【お問い合わせ・資料請求】　一般社団法人日本栄養経営実践協会　TEL03-3553-2903　くわしくは 栄養経営士 検索

コロナ禍のピンチをチャンスに変え 新たな取り組みや業務改善に着手を

第3波の到来と言われる新型コロナウイルス感染症の勢いは止まるところを知らず、全国で日々2000人を超える新規感染者が発生しています（12月中旬現在）。長く続くコロナ禍において、栄養経営士は何を考え、行動に移せば良いのか。九州支部の片桐義範支部長と、同支部で活躍中の栄養経営士3名にメッセージをいただきました。

他部門との連携を深め、より良いシステムの構築を図ろう



日本栄養経営実践協会
九州支部支部長
福岡女子大学 国際文理学部
食・健康学科 教授
片桐義範

私は大学に勤務しておりますが、新型コロナウイルスによる影響で、教育現場ではオンラインでの授業や実習が続いています。対面で実施しているものも一部にはありますが、大半がオンラインとなっているため、学生と直接会う機会も少なくなっています。学生一人ひとりの状況を把握できるよう、授業では質問の時間を多く設けるなどしてコミュニケーションの場を増やし、試行錯誤をしている状況です。

病院や介護福祉施設などで行う臨地実習については、実習生を受け入れていただく栄養管理部門の先生方のご指導とご支援をいただきながら実施しています。このような状況下でも、学生実習を受け入れていただけますことに、心よりお礼申し上げます。

病院・施設で実践されている栄養管理の現状やその雰囲気など、栄養管理を実践されている先生方の姿は臨地実習でしか学ぶことができません。学生にとって貴重な学びの機会ですので、大学側としては、これからも病院・施設の先生方と情報交換を行いながら、臨地実習の依頼をさせていただきたいと考えています。

病院・施設の栄養管理を担っておられる栄養管理部門の先生方は、新型コロナウイルスの影響による管理体制の強化など、通常より業務量も増えているのではないかと思います。周りの状況は変化しても、栄養管理業務や部門運営は通常通り実施していかなければならないため、業務の見直しなども必要になってきているのではないでしょうか。

コロナ禍においては、栄養管理部門内の連携はもちろん、他部門との情報交換や連携も強化しながら、柔軟な発想をもって、より良いシステムの構築を図っていく必要があるのではないかと思います。

私も医療施設に勤務した経験がありますので、他部門との情報共有や連携は重要なテーマの一つと認識しております。特別な機会を設けなくても、日頃のあいさつや会話を通してコミュニケーションをとりながら、病棟や診療科をはじめとした他部門との情報交換を行い、患者さんの状況や課題を知り、病棟の要望に応えていくことで信頼関係も深まるのではないかと思います。何が問題か、何を求められているか、相手にとって必要なことを常に考えることが重要です。

皆さんもオンラインを活用した研究会等を通して、他施設の栄養経営士・管理栄養士と情報交換の機会を設けてください。きっとこれまでと違う視点が生まれ、業務の改善や新たな取り組みなどのきっかけになるのではないかと思います。

栄養経営士3名からのメッセージ

コロナ禍をきっかけに業務改善でコスト削減を達成

特別養護老人ホーム白熊園
川原 瞳さん

コロナ禍により、入居者様はご家族との面会や集団レクリエーション等ができず、身体機能の低下が著明です。通常より栄養補助食品を使用するなど栄養強化の対応も増えました。また、施設でのイベントも職員が主として動き、ご利用者の参加は部分的に制限しながら、できる限り実施しています。

収入増加の見込みは立てづらいため、支出の見直しを行い、とくに給食部門の改革を計画しています。元々、長年勤めている調理員が多く、厨房職員全体が高齢化し、子育て世代の確保のためにも早出や遅出、休日のシフトについて働き方改革をする必要性を感じていました。事務部に現状と人員不足に陥る可能性を訴え、ブラストチラー（食品を急速冷却できる加工機器）を導入しました。クックチル方式にすることで日中に業務を集中させ、早朝の業務負担を減らし、更なる人員削減も目指しています。献立もクックチルを基準として調整中です。

コロナ禍によるピンチがコスト削減と業務改善のチャンスにもなりました。今後はますます経営の視点を持つことが重要になります。常に先を見据えて、柔軟かつ新しい発想で進化したいと思っています。

新たな取り組みから地域とのつながりをつくる

赤池協同医院
内山 拓也さん

当院では、4～5月の外来患者が2割減少し、11月からは入院も停止し、収益は減少しています。私は管理栄養士と理学療法士の資格を保有しており、開発部の主任として、新規事業を立ち上げに取り組み、運動と栄養の両面から発信しています。

自粛期間中には患者から家庭でできる運動を教えてほしいと相談を受け、YouTubeチャンネルを開設しました。院内で宣伝すると思っていた以上に反響があり、高齢者の方は想像以上にオンラインでの動画視聴に慣れていることが分かりました。この動画を行政の方にも宣伝し、少人数での講演会の依頼も来ました。こういう時期だからこそつくれるつながりを、増やしていけたらと思います。また、入院が停止したことによる余剰人員があるので、訪問やオンライン診療などの導入も視野に入れています。とくにパーソナルトレーニングを新たに行い、介護予防の事業をつくる予定です。

当院への信頼感や親しみやすさにつながってほしいと考え、受付では管理栄養士が常時、相談を受け付けるようにしました。コロナが収まったときに、またここに来たいと思っていただける場所にしたいと考えています。

患者本位の栄養管理と職員の健康を両立させる対応を

地方独立行政法人佐賀県医療センター好生館 栄養管理室
小根森智子さん

当院は感染症指定医療機関で、新型コロナウイルス感染症の患者の受け入れをしています。食事提供では、食欲不振の方や味覚障害がある方に気を配っています。栄養価よりも食べてもらうことに重点を置き、濃い目の味付けにしたり、お好きなものを提供したりするようにしました。感染者専用病床では専門スタッフのみが対応するため、患者さんの要望を正確に聞き取りづらいことがネックです。今後はWEBカメラを導入するので、直接お話しできる機会を増やしたいと考えています。

調理スタッフには衛生面の要点をまとめたポスターを作成して目につくところに貼ったり、ミーティングで常に情報共有を行ったりしています。

第3波に向け、職員が感染して食事提供ができなくならないか不安ですが、万が一感染した場合に備えて、最低限の食事が出せるようにマニュアルと献立を作成しています。予定通りできるかはそのときにならないとわかりませんが、スタッフと試行錯誤しながら対応していきます。患者本位を考えながら、栄養管理室のスタッフや自分の健康を守りつつ、取り組んでいきたいと思います。

支部NEWS　九州支部

【九州支部】セミナーレポート

新たな手法を知り、業務や現状を見直して勇気ある一歩を

遠隔による栄養食事指導～SNSを活用した栄養指導の取り組み～

日本栄養経営実践協会九州支部は11月29日(日)に栄養経営士研究会を開催しました。「第5回全国栄養経営士のつどい名古屋大会」で実践報告をした大和クリニック管理栄養士で栄養経営士の中村達也氏と日本栄養実践協会の山下茂子理事が講師を務め、新しい分野に挑戦する管理栄養士像について語りました。

オンライン栄養指導等の新たな手法を知り業務の見直し・改善を

第一部では、山下理事が2020年4月に見直し・改定された外来栄養食事指導料の「情報通信機器を用いる場合の加算」について講義しました。
山下理事は「電話やZoomなどの通信機器を使用した指導や講演会等が普通になるなか、私たちの業務も変わらなければならない。メリット・デメリットを理解していたうえで、業務の改革・改善を図ってほしい」と強調しました。

通信機器を用いたオンライン診療は2018年に加算が新設、2019年の中医協の報告ではアンケートに回答した37病院の約24%、679診療所の約16%が実施していると回答するに留まり、普及はあまり進んでいません。原因としては十分な診療を行えないことや、機器やシステムの導入コストの高さが挙げられています。

一方、2019年11月8日に開催された中医協の資料によると、管理栄養士が情報通信機器を用いて糖尿病の患者に対して遠隔栄養指導を行った群と通常治療群とを比較すると、指導の12週目には5%以上体重減少した患者が有意に多く、一定の効果があることがわかりました。

また、デメリットについても取り上げ、電話では「表情が見えない」「指導用の資料が使えない」、Zoomでは「映像や音声が途切れることがある」と説明。対面に比べ情報量が限られるため、相手の言おうとしていることを汲み取る能力や臨機応変な対応が求められており、指導やカウンセリングの技術や知識をこれまで以上に高めていくことが必要だと強調しました。

どんな手法でも対象者との信頼関係が重要目標に向けてまず一歩を踏み出そう

第二部では栄養経営士の中村達也氏がSNSツールを用いた栄養指導や自身の活動について説明しました。中村氏は内科循環器クリニックと併設のフィットネスジムで栄養指導を実施しており、SNSツールは加算外になるものの、あえてこの手法を選択したといいます。「フィットネスジムは肥満の方が多く、口頭のやりとりでの指導だった。以前にSNSツールを用いた指導の経験があり、より深く対象者の食事に介入できることから導入を決めた」と中村氏。指導期間は3カ月間で、毎食写真を送ってもらい、中村氏がコメントを返すという方法です。やりとりの際の注意点としては「対象者からの投稿に対しては必ず、お礼・アセスメント・対策を返信する。対象者の行動が定着し自立につながるように、レベルに応じて情報の内容や伝え方に気を遣った」とのこと。対面と通信機器の使用とで手法は違っても、対象者と信頼関係を築き、コミュニケーションとることが重要だと訴えました。

また、業務外の活動も行っており、中村氏は「管理栄養士としてさまざまなことに取り組みたいと考え、栄養士の交流の場づくりやキャリア相談なども行っている。目標や夢を明確に持ち、何事もまずは実践から」と自身の姿勢について語りました。

最後に山下理事が「新しいことを導入するときは不安が伴うが、一歩踏み出す勇気を持ち、協力してくれる人とのつながりを積極的につくろう」と語り、研究会をしめくくりました。

「どんな管理栄養士になりたいか、そのためにどうすればいいか」と参加者に投げかける中村氏

NME REPORT 栄養経営士 活動報告

新型コロナウイルスに負けず、勉強する場は自分たちでつくろう!

外の勉強会に参加してみることで得られる新たな発見や刺激が自身の成長につながる

新型コロナウイルス感染拡大の影響で学会や勉強会の中止が相次ぐ状況においても、自分たちで学ぶ場をしっかりと確保している方もいらっしゃいます。今回はNutrition Reformの会(以下、NRの会)とKiFC(キーエフシー)会という2つの勉強会を運営している、栄養経営士の千葉枝里子さん(東京医科大学病院栄養管理科)にお話を伺いました。

管理栄養士として学ぶ場が欲しかった

NRの会は、もともと2019年に神奈川県の栄養士同士で「勉強する場が欲しいね」という話が盛り上がってきたのがきっかけです。神奈川県はもともとNSTについて学ぶ勉強会がいくつかあったのですが、看護師や薬剤師といった職種が中心となっていて、管理栄養士がメインのものは多くありませんでした。他職種と一緒に学ぶことはもちろん大切なのですが、管理栄養士としてのベースがなければチームにも参加できません。そこで、管理栄養士としての基礎をしっかり学べる場所をつくりたいという思いが高まり、栄養経営士で社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス海老名総合病院医療技術部栄養科主任の齊藤大蔵さんとも相談をしながら、まずは県内の知り合いに声を掛け、世話人を決めて活動をスタートさせました。

２年目の今年は症例検討をしたいということで、当初は世話人のなかで症例発表する人を回していくことになっていました。ただ始めてみると参加者の中から「自分もやりたい」という声が挙がるようになってきたので、手を挙げていただいた方と世話人が二人三脚で、1カ月前に予演会を行い内容の指導もしながら準備をしていく形で行っています。症例検討は各施設での栄養管理の症例を全員で共有し学べる貴重な機会です。また、発表する方にとっては貴重なアウトプットの場になりますし、指導する側にとっても自分の発表をするのとは違う見方が必要になり、大変勉強になっています。

もう1つのKiFC会は「Key information(重要な情報発信)」、「For Dietitians(患者さん・栄養士のための)」、「Communication(情報共有の場)」の頭文字を取ったものです。コロナウイルスの感染拡大でさまざまなセミナーが中止になるなかで、栄養経営士でもあり近森病院の臨床栄養部部長を務めている宮島功さんに声を掛けていただいて立ち上げた、Zoomを使った勉強会です。こちらはセミナー形式で講義が中心のスタイルで行っています。私たちが話をしているので何でも聞けるような雰囲気がありますし、「自分はこういうやり方でやっています」のようなディスカッションもしやすいかなと思っています。

参加される方には病院勤務の方もいれば施設の方もいます。病院でも急性期から慢性期まで幅広く、それぞれ経験も異なりますので、一回で全参加者が満足するものをやるというのは難しいのですが、いろいろな立場の方の視点がわかることで視野が広がるということはメリットだと捉えて、今後もさまざまなテーマで開催していきたいと考えています。

勉強会は自分の視野を拡げるチャンス

自分の職場しか知らないと、どうしても自分の見える範囲のことしかわからなくなってしまいます。ほかの病院や施設がどうやっているのか、そこの管理栄養士は何をやっているのかを知ることで刺激にもなりますし、それが自分の成長につながります。勉強会はそこで話されることを学ぶのももちろんですが、参加者同士が接点を持ち、交流を通して視野を拡げていけることも大きなメリットだと思います。

自分で勉強会を開催したいという相談をいただくこともありますが、まず「何を目的に勉強会を開催するのか」を明確にすることが非常に大切です。目的が明確であれば、モチベーションの維持と勉強会の継続につながります。まずは身近にいる管理栄養士と一緒に勉強しよう、というところから始めてみてはいかがでしょうか。運営する側になってみて学べることもたくさんありますので、ぜひチャレンジしてみてください。

Nutrition Reformの会への
お問い合わせは
コチラのアドレスからお気軽にどうぞ！
nutrition.reform.s@gmail.com

新会員サービス「オンラインサロン」開始のお知らせ

エキスパートの先生に仕事の悩みや不安など気軽に相談してみよう!

日本栄養経営実践協会では、新しい会員サービスとしてZoomを使用した「オンラインサロン」を開始いたしました。

サロンは会員同士の交流・情報交換はもちろん、当協会の宮澤靖代表理事をはじめとした役員の先生方や支部研究会・セミナーで講師を務めていただいた先生などをゲストとしてお呼びし、参加者全員が丸テーブルを囲んで楽しくおしゃべりするように、気軽に質問・相談もできるスタイルになっています。仕事の悩みや不安、気になることなど、エキスパートの先生方に質問することも可能です。

すでに第1回目が12月7日（月）に開催され、当日は宮澤代表理事を含め総勢17人が参加。「部内の勉強会を行うときのコツ」や「病棟配置の効果のアピールのしかた」など、気になっているけれど、なかなか他ではできない相談が相次ぎました。

そのなかで「NSTを立ち上げることになったが、コロナで研修ができない。院内に活動をどう浸透させていけばよいか」という質問には、宮澤代表理事から「研修をすればNSTの活動が周知できるというものではない。まずは立ち上げの時期に、なぜ今NSTが必要なのかを院内で徹底的に議論をしなければ。そうして病院全体を巻き込んでいくことが、成功させる一番のコツ」と、厳しくも大変参考になる言葉がかけられました。

この日は宮澤代表理事以外にも、吉田貞夫理事、真壁昇理事の二人も参加。他の理事の発言に追加情報を加えたり、理事同士の情報交換が行われたりと、オンラインサロンならではの光景も見られました。

参加者からは「とても有意義だったので、また参加したい」「もっと話がしたかった」「今度はチャットできる時間もつくって欲しい」といったうれしい感想やご要望をいただきました。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。ありがとうございました。

なお、オンラインサロンは会員限定のサービスであり、栄養経営士・栄養経営サポーターのみ参加できます。会員ならではの特権をぜひ活用してください。

次回開催日は未定ですが、1月中の実施を予定しております。開催日が決まり次第、メルマガ等でお知らせいたしますので、皆様奮ってご参加ください!

■栄養経営士 オンラインサロン
◇参加対象:栄養経営士・栄養経営サポーター
◇受講料:無料
◇定員:先着30名（定員に達し次第締切）
◇形式:オンライン配信（Zoom）
◇開催日:月1～2回を予定（次回は1月開催予定）
※お互いの顔を見ながら会話をするので、カメラ機能が使えるパソコン・タブレット等をご用意ください
※個別の症例の相談にはお答えできません

オンラインサロンを活用して会員同士の活動の輪を広げよう!

一般社団法人日本栄養経営実践協会
代表理事
宮澤靖

昔、ASPEN（米国静脈経腸栄養学会）に参加したときに「Meet the Expert」という講座がありました。広い会場に丸テーブルがたくさんあって、各テーブルにいろいろな分野のエキスパートの先生が座っており、参加者は好きなテーブルに座ってその先生とお話ができる、というものでした。普段は壇上でしか見られない先生と気軽に話せて、質問ができる。他人の質問を聞くだけでも勉強になって、とても有意義でした。

同じようなことを当協会でもできればと思い、はじめたのが今回のオンラインサロンです。毎回誰かゲストをお呼びして、月に1度は開催できればと考えています。普段はなかなか話せないような方から直接アドバイスがもらえる、協会会員だけの特権です。ご自宅からでも気軽に参加できますので、ぜひご活用ください。そして、どんどん活動の輪を広げていきましょう!

栄養経営士が知っておきたい!
イベント情報掲示板

栄養経営士に求められるのは、さまざまな情報へのアンテナを張り、自身の知識・スキルを常にアップデートしておくこと。そのための貴重な機会である、全国で開催されるイベント情報を、支部の研究会を中心に掲載します。

※新型コロナウイルス感染症対策で、イベントが中止になる場合があります。
必ず最新情報を確認してください。

オンラインセミナー情報

第11回 摂食嚥下リハビリテーションと栄養ケアセミナー

「口と喉の動きを知り、栄養管理に応用できる咀嚼・嚥下機能評価と物性調整の実践」をテーマに、咀嚼・嚥下機能評価を知り、安全な適切な物性の嚥下調整食をつくって栄養改善につなぐための栄養管理のあり方について学びます。

○日　程：2021年1月10日（日）13:00～16:00（仮）
○講　演：菊谷 武氏（日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック院長）
栢下 淳氏（県立広島大学人間文化学部健康科学科教授）
松尾浩一郎氏（藤田医科大学医学部歯科・口腔外科学講座主任教授）
○参加費（税込）：【会員】3,000円　【一般】8,000円
○定員　500名（先着順）　※Zoomウェビナー機能を使用します
○お問い合わせ：株式会社日本医療企画 セミナー専務局（担当:金久保）
TEL:03-3553-2885

協会事務局より

2020年12月期限の会員の皆様へ
【年度会費納入および資格更新のご案内】

本年12月に年度会費・会員資格の有効期限を迎える会員の皆さまに、当協会より、年度会費納入および資格更新のご案内を郵送しております。振込み期限は過ぎておりますが、事務局ではまだ手続きを受けつけております。対象の方はご確認およびお手続きのほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

○年度会費：有効期限が2019年12月20日～2020年12月19日の方
【個人正会員】10,000円
【栄養経営サポーター】8,000円
○資格更新：会員資格が2017年12月20日～2020年12月19日の方
【個人正会員】15,000円（年度会費込み）
※申請書類・課題をご提出ください。
【栄養経営サポーター】13,000円（年度会費込み）
○お問い合わせ：一般社団法人日本栄養経営実践協会
TEL:03-3553-2903